

令和2年度第2回石巻地域産業人材育成・定着推進会議

参加者発言要旨

開催日時：令和2年8月28日（金）午後2時～午後4時

開催場所：東松島市鳴瀬庁舎3階会議室

1 会議の趣旨

石巻地域の課題となっている「人材育成・定着」に関連する議題について、産業・教育・行政（石巻地域産業人材育成プラットフォーム構成機関及び管内高等学校）の実務担当者で情報共有及び有効な取組内容等について意見交換を行い、人材育成・定着に向けた取組の推進を図るもの。

2 出席者

【産業】

石巻商工会議所	地域・人づくり支援課長補佐	大槻 清勝
東松島市商工会	副参事	高橋 広史
石巻信用金庫	人事部長	西條 育朗

【教育】

石巻専修大学	事務部事務課長補佐	猪瀬 寿人
宮城県石巻商業高等学校	教諭	志茂 寿朗
宮城県石巻北高等学校	教諭	楯石 誠晃
	就職支援担当教員	佐々木 英一
宮城県石巻北高等学校飯野川校	教諭	大橋 孝幸
宮城県水産高等学校	教諭	高橋 昭二
宮城県石巻工業高等学校	教諭	荒井 章展
宮城県東松島高等学校	教諭	磯部 洋
石巻市立桜坂高等学校	教諭	遠藤 則靖
宮城県立支援学校女川高等学園	教諭	阿部 光博
宮城県石巻北高等学校飯野川校，宮城県東松島高等学校 連携コーディネーター		本木 由紀子
宮城県石巻商業高等学校，宮城県水産高等学校 連携コーディネーター		西塚 久良

【行政機関】

石巻公共職業安定所	統括職業指導官	笹原 純恵
石巻市復興政策部SDGs地域戦略推進室 主査		柴田 直人
産業部商工課	主任主事	村上 伸介
東松島市産業部	商工観光課 主査	千葉 芳裕
宮城県東部教育事務所	次長（社会教育主事）	飯川 弘芳

【オブザーバー】

一般社団法人みやぎ工業会	ものづくり企業コーディネーター	飯盛 良拓
宮城県経済商工観光部産業人材対策課企画班	技術主幹（副班長）	高橋 保幸
教育庁高校教育課キャリア教育班	課長補佐（班長）	長田 晃明

【事務局】

宮城県東部地方振興事務所地方振興部

商工・振興第一班	次長兼企画員（班長）	渥美 亨
	技術主査（副班長）	木村 俊太
	主査	清水 陽介

3 参加者発言要旨

報告

(1) 管内求人状況について（石巻公共職業安定所）

資料1により石巻公共職業安定所から説明。

新規高等学校卒業生向けの求人状況

- ・製造業の求人は昨年より20.9%減少。
- ・卸売・小売業の求人は昨年より48.6%減少。
- ・宿泊業の求人は3件のみ。昨年より85.0%減少。
- ・管内求人数は昨年8月末で815人あったが、今年8月27日現在で707人、事業所数は昨年226社で330件、今年は221社で308件の受付となっている。県内は昨年10,500人に対し、今年7月末で8,900人と減少している。
- ・求人倍率は2.75倍となったが、昨年より減少している。宿泊業、小売業がかなり少ない。
- ・県内で求人を出していた企業のうち6件が求人の取消しをしている。他にも石巻管内で2件、取り下げや採用人数の減について相談がきている。

(2) 各校の就職に関する動向について

資料2により石巻商業高校、石巻北高校、宮城県水産高校、石巻工業高校、桜坂高校から説明。

■石巻商業高校

- ・進学より就職希望者が多い。
- ・県外就職希望者が0人となっている（昨年は7人）。
- ・公務員希望者が増加傾向。男子9人女子1人。
- ・求人について管内は昨年度とほぼ変わらない。県内（管内以外）、県外企業の求人は減少。
- ・昨年度と比較して就職希望人数はほぼ変わらないが求人が少ないため、就職希望企業に対して競合する恐れがある。

■石巻北高校

- ・就職希望が6割、進学希望が4割となっている。

- ・販売サービスの求人が減少していること。県内ホテルも数社程度の求人しかない。
- ・昨年より求人が減少していることにより競合の可能性が高く、懸念している。
- ・企業に確認したところ、求人を見合わせている企業が多い印象。
- ・公務員希望が例年より増加傾向。

■宮城県水産高校

- ・求人が大幅に減ったという印象はない。
- ・飲食サービス宿泊は減少傾向。
- ・調理類型の生徒はホテルの就職希望が多い。ホテルに確認すると求人を見合わせている状況で、もう少し待つて欲しいとの回答があった。
- ・県外就職希望者は減少傾向。
- ・船舶就職は県外企業が多い。
- ・今年度は、土木、運輸、清掃業が増加傾向。
- ・例年外部講師を招き、模擬面接を実施しているが新型コロナウイルスの影響で実施できない。

■石巻工業高校

- ・就職希望が6割、進学希望が4割となっている。
- ・進学が例年より多い印象。
- ・県外就職が減少している。
- ・求人は昨年度より減少しているが、飲食サービス業の減少なので本校としては製造業への就職が多いため、影響は少ない。しかし来年以降の求人はわからないので不安。
- ・関東地方の企業が応募前見学会を中止している。見学もできずに就職試験を受けることについて心配している。

■桜坂高校

- ・女子生徒向けの就職先である、宿泊、観光、ブライダル関係の求人が減少している。
- ・例年就職希望者は50人から60人で今年度は現在51人。
- ・就職先について迷っている生徒が多い。NPO法人と連携した進路相談を実施。
- ・今年度の生徒は進路決定が大分遅れている。
- ・関東地方の企業8社がウェブ会議システム（ズーム）を使用した企業見学を実施。
VRを活用して企業内撮影したものを生徒に見せる企業が1社あり5、6人の生徒が見学予定。
- ・女子生徒の固定化された就職先の選択を変えるため、IT企業系の製造業が好調ということもあり、製造業にも目を向けてもらえるよう、生徒に薦めている。
- ・8月7日（金）に12社の企業を招いて企業説明会を実施。直接企業の話が聞けると生徒も喜んでいました。
- ・今年度から求人票の記載内容で給与の手取り額の記載が無くなっており、一目で手取り額がわからない状況に困惑している。

○質疑応答

■石巻公共職業安定所

桜坂高校から指摘のあった求人票についてだが、今年度から様式が変わっている。記載内容の条件が細分化されており、手取りまで表示できなくなってしまった。

意見交換

令和2年度石巻地域産業人材育成プラットフォームにおける取組について

(1) web地元企業説明会（仮称）の開催について

資料3-1により事務局から説明。

■宮城県老人福祉施設協議会石巻・東松島地区連絡協議会

オンライン導入は介護業界も増えている。当該取組への参加を希望する企業は多いのではないだろうか。20社では少ないように見受けられる。応募が多い場合は対応可能か。

■事務局（宮城県東部地方振興事務所）

今の段階では20社で考えていたが、上限ではない。あまりにも参加希望が多い場合は別途検討する。

■事務局

他に意見が無いようなので、この案のとおり進めさせていただきたい。今後詳細について調整するのでご協力お願いします。

(2) 管内高校生及びその保護者、石巻専修大学生を対象とした就職意識調査の実施について

資料3-2により事務局から説明。

■石巻専修大学

後期もオンライン授業を実施予定なので、紙ベースではなくウェブを使ったアンケートの方が回収しやすくなるかと思うので検討願いたい。

■事務局

回収率低下の懸念もあるが、ウェブでの実施についても検討したい。

■石巻工業高校

このような調査については、目的はあるのだろうが、やらないよりはやったほうがよいという意味合いで実施している調査が多いように見受けられる。

現場では相当数の調査依頼があり、調査・集計・報告に係る業務が非常に多く、目一杯である。今年度実施の有無や調査内容について吟味して欲しい。

地元就職率低下の原因把握についてだが、少子化問題や地元企業とのマッチングができていないこと、生徒や保護者の地元企業の認知度不足が原因と考えられており、解決のための施策は、今までも実施してきているのではないだろうか。

今回提案された意識調査については高校生全員、保護者まで実施となっている。配布、回収、集計を現場でやるのは大きな負担となる。石巻市で実施している意識調査は市が印刷したものを配布、回収しており、集計は市で行っている。負担は少ない。

しかし、毎年調査をしているが、市としての施策立案や改善案等フィードバックが見えて

こない。ただ実施しているだけに思える。今回もそうならないように、安易に実施せず、見直しを立てて実施して欲しい。調査をしなくとも施策は打てるのではないかとも思うが。

今回提案された意識調査は、まず施策立案のためにスタート時点での状況をはっきりさせたいという気持ちは理解できる。しかし、新型コロナの影響により授業日数の確保等、調査に充てる時間がない。また、1年生の調査結果は大半が将来について未定となるので、調査としてはあまり意味がないように思える。

■事務局

確かに地元就職率低下は、少子化や地元企業の魅力発信や認知度の不足が原因と推測できる。しかし、今回の調査では、まず取組のスタート時点での状況をはっきりさせたいと考えている。

調査結果のフィードバックについては、この会議の場を使って共有し、参集機関で施策を考えていきたいと思っている。

当会議は昨年度までは各機関の取組報告にとどまっており、発表会のような場であったが今年度からは実践の場にしたいと考えている。石巻圏域一丸となって取り組んでいかないと解決できないと思っている。意識調査の設問内容もこの場で合意を得ながら作っていききたい。だが、一方で学校側の負担は無視できない。皆でアイデアを出しあいながら実施について検討する。今までのデータを活用しながら、足りない部分を見つけて作っていききたい。

■石巻市SDGs地域戦略推進室

当市で実施している調査については、学校側の負担にならないように質問項目を絞っている。今後、県で実施する調査においては質問の量を十分配慮して作成する必要がある。

県と市の意識調査一本化については、事務方としては一本化できる可能性があると考えている。

今年度の県の意識調査実施については、新型コロナの影響により学校側の負担が例年より大きくなるため懸念している。

■事務局

石巻市との調査一本化ができそうだという意見と学校側の負担増について意見いただいた。今年度の実施については、改めて検討したい。

■連携コーディネーター（石巻商業高校、宮城県水産高校）西塚氏

意識調査についてはいつごろ市と一本化して実施する予定なのか。

■事務局

石巻市と合意形成した上で、できれば令和3年度から石巻市と一本化して実施したい。

■連携コーディネーター（石巻商業高校、宮城県水産高校）西塚氏

市と県で似たようなアンケート調査をされるのは現場側として大変。一本化すべき。ま

た、保護者も含めれば回収が大変。内容を市と精査して実施すべき。

■石巻信用金庫

石巻市の意識調査は、フィードバックされているのか。

■石巻市SDGs地域戦略推進室

調査結果については、庁内で共有していることと、外部委員を招いた地方創生推進会議で報告している。高校及び大学にも報告している。フィードバックとしては若い世代が参加する「いしのみき政策コンテスト」を行っており、内容を充実させる形をとっている。また、企業誘致の関係では、学生の半数が市内で働きたいという調査結果を活用してPRしている。

■石巻信用金庫

色々な部分で活用していると思うのだが、学校側の生徒や保護者に対して、調査結果に傾向等を示して結果を認識してもらうことが大切。市民生活の向上に繋げることは大事だが、回答者にフィードバックすることも必要。

■事務局

石巻市と意識調査を一本化した場合は、当会議でフィードバック、施策の検討、具現化まで行いたい。また、アンケート回答者についても結果を報告したい。

■一般社団法人ISHINOMAKI 2.0

外部機関の意見として聞いていただきたい。今回提案された意識調査は、継続して実施されるため、意識の変化を確認できることや調査結果について参集機関で共有し、施策を考えていくという点で良いことと思う。

できれば、学校ごとの分析結果を作ってフィードバックしていくのが良いのではないかと。石巻全体の結果だと学校側としては傾向がつかみにくいが、学校ごとならわかりやすいのではないだろうか。

自分の就職観の変化、進学から就職又は就職から進学への進路希望の変化、石巻にいたいと思うようになったこと等、いつ頃意識が変化したのか、また、どの取組に影響を受けているかがわかれば各取組の成果がわかり、実効性のある取組ができるのではないだろうか。そのような調査であれば、学校側としても意義があるはずだ。

単に就職者や進学者が増えたという数値的な結果を指標にするのではなく、1年生からどの程度進路について意欲的に考えているか、具体的なイメージが持っているか、どれだけ意欲をもって自分の人生を考えているか等も指標にすべき。3年生でも今の時期に進路を決められない生徒も多いと聞くので、アンケートによって把握して取組に活かすことができれば大変良い調査となるのではないかとと思う。

■事務局

具体的な質問内容やフィードバックの仕方は当会議で考えていきたい。調査を具現化する

上で参考になった。

■石巻北高校

追跡調査をするということは、生徒一人一人にIDをつける必要があるかと思うのだが手法についてはどのように考えているか。

■事務局

想定しているのは学校単位の1年生が2年生、3年生になってどう変わったのかまで押さえられればと思っている。一人一人にIDを割り当てることは考えていない。今後の会議で要望を聞きつつ手法を決めたい。

■石巻北高校

傾向をつかむだけであれば、抽出調査でも良いと思う。検討願う。

■事務局

抽出調査の場合、有効となる調査数等がどのくらいになるのか調べる必要があるため、今後検討していきたい。

■一般社団法人みやぎ工業会 ものづくり企業CD 飯盛氏

調査結果のフィードバック等、学校側にとって意義のある内容であることを示さないと理解は得られない。地元に残らない理由として生徒、保護者、先生を含めて地元企業の認知度不足が考えられる。みやぎ工業会では先生のための企業見学会を実施している。市として地元の高校生を残したいのであれば企業を学校へ連れて行き、しっかりPRすることが必要。企業に関する情報が無いのであれば、東部地方振興事務所と連携するべきである。

3年生になってから就職を考えるのではなく、1年生のうちから意識付けをする必要がある。例えば、1年生は職業観の意識付け、2年生は地元企業を知ること3年生は就職対策をする等、段階的な支援が必要。

■その他

石巻専修大学

本学の進路状況について情報共有させていただく。本日付けの内定状況は、民間企業への就職について理工学部42.4%、経営学部49.4%、人間学部(教員・保育士)28.6%。全体では42.4%となっている。昨年の同時期は70.6%だった。今年はかなり低い数値となっている。

このようなことから、本学ではオンライン、メール、電話を活用した個別面談やズームを活用したオンライン企業説明会を実施している。8月までの実施率は約半数。対面での実施は3割だったので増えてきている。

本学生は緊急事態宣言解除後に個別でも就職活動をしているが、内定まで繋がっていない学生や就職活動状況が不明な学生については、情報提供等のサポートをしている。

求人している事業者数は昨年とほぼ変わらないが、採用人数が減っている。現在も採用人数の見直しをする企業が出てきている。

その他の情報として、8月31日から9月5日に東北地区28私立大学で構成している東北地区就職問題協議会でオンライン（ズーム）企業説明会を実施予定。46社が参加予定である。加盟大学の学生が参加できるイベントとなっている。

本学は9月18日までが夏季休暇。休暇後は卒論研究も始まる。学業の合間を縫ってサポートをしていく。

■事務局

大学に対しては、当圏域としての支援も必要だが、県全体の問題という認識。圏域としてもできることを検討していくが、県全体で考えていく必要もあるので、現状について県庁サイドに伝えたい。

■宮城県老人福祉施設協議会石巻・東松島地区連絡協議会

福祉の現場は非常に人手不足。国の配置基準を下回らないようにサービスを展開している。昨年は介護に就職した人数はごく少数だったが、今年度もそうなのか。

■桜坂高校

本校は現在、就職希望者51人中2人が介護に就職希望である。

■宮城県老人福祉施設協議会石巻・東松島地区連絡協議会

福祉介護は大変なイメージが先行している。しかし、コロナ禍でも安定的に運営できている。人材不足ではあるが、就職者は増えている。今後、日本の産業の中で福祉分野の従事者が一番多くなることが予測されている。単に魅力がないから人材不足なのではなく、ニーズがあり、事業所が急速に増えているため人材不足となっている。

介護業界は、ICT化されてきており、従来のイメージから変わってきている。また、国の支援もあり給与面も改善されてきている。就職者が増えれば、石巻圏域に残る人も増えるだろう。是非、web地元企業説明会でも魅力をPRしたい。

■一般社団法人東松島みらいとし機構

当会議は実践の場ということだが、この場の議論の出口が県の政策として反映されるのか又は補助事業ができるのか教えて欲しい。

■事務局

今年度から当会議は、取組紹介の場から課題検討の場にした。課題によって出口は変わってくる。県が予算化するものなのか、学校側の取組となるのか、一つ一つ変わってくる。出てきた課題について解決策を検討し、皆で協力しながら取組みたい。

■一般社団法人東松島みらいとし機構

地域の人材確保という点では、U I J ターンの推進，副業及び創業支援等，多角的な検討も今後必要になってくるのではないかと思う。

■事務局

今回検討している意識調査の設問の中で進学後のUターン希望等についても調べ，現状認識して施策を検討したい。

■一般社団法人 I S H I N O M A K I 2 . 0

当法人は，桜坂高校や市の委託でキャリア教育事業の推進，石巻西高校の文部科学省モデル事業として学校と地域の協同による学校改革事業，産業人材対策課の委託による県内高校のキャリア教育の推進に取り組んでいる。また，今年の2月から石巻地域連携コンソーシアムにも参画させてもらっている。高大産連携しながら若い世代を盛り上げながら育てていけるプロジェクトを検討している。今後とも教育機関や行政，企業と連携していきたいのでよろしく申し上げます。

■宮城県教育庁高校教育課

今回提案された意識調査については，やはり学校現場の負担が大きく大変だろう。先生の負担を取り除くため，生徒や保護者がQRコードを読み込んでアンケートに答えるような仕組み等検討してほしい。

教育現場と地域との連携については，かなり変化してきている。今後ますます地域を知ることや連携すること，産業人材を育成することが重要になってきている。皆さんの意見を聞きながら何かできることがあれば手伝いたい。

■宮城県経済商工観光部産業人材対策課

今回の会議に出席して，議論の場は大切と感じた。今まで主に高校生に目を向けてきたが石巻専修大学の話を伺って，改めて状況把握できた。今後，支援策等議論していきたい。

■事務局

長時間議論いただき，ありがとうございました。本日いただいた御意見については，県で行う部分についてはさらに実行に向けてブラッシュアップさせていただく。

次回の会議日程については未定だが，必要に応じて調整の上，開催させていただきたい。また，一方で，県だけでなく，参集機関の中から議論したいことがあれば，事務局に相談いただきたい。この会議は各機関からの課題について皆で議論しながら解決に向けて進めていく実践の場としたい。今後とも協力よろしく申し上げます。

以 上